

チガヤの駆除

イネ科の植物のチガヤは、繁殖力の強さから世界最強の雑草とも呼ばれています。結実して種が落ちる前に刈り取っても地下茎にはすでに次の芽が育っているで、すぐに復元してしまいます。このチガヤがテニスコート脇のローズマリーの植栽地に入り込みました。毎年何回か根元で刈り取って繁殖を抑えようとしてきましたが、地下茎を取り除けないので、年を重ねるごとにチガヤの量は増えてきました。



スコップを使って掘り起こそうとしましたが、ローズマリーも繁殖力が強い植物なので、地中はこの根とチガヤの根が絡み合いスポンジ状になっていました。コンクリート壁の脇ではスコップも入りますが、ローズマリーの株を球形に掘り起こせませんでした。試しにツルハシで分離しようとしても、上手く刺さりませんでした。

左の写真は、テニスコート脇にあるローズマリーの植栽地の一部ですが、イネ科のチガヤに埋もれるようにローズマリーが小さな花を咲かせています。よく見ないと管理を放棄して雑草が生い茂ってしまった植栽地にしか見えません。ここまでチガヤが繁殖してしまうと、全体を掘り起こして、ローズマリーとチガヤを分離するとともに、地下茎を取り除くしか駆除する方法がなくなりました。



そこで、少しずつ切り崩すように掘り出して、チガヤを取り除きました。しかし、残った土の中にもチガヤの根や地下茎があり、掘り進めると40cmくらいの深さまで地下茎が育っていました。掘り取った土は再利用したいと考えていましたが、細かい根や茎は取り切れません。仕方がないので土ごと全て掘り取った状況が左の写真です。



植栽地には新たな黒土と腐葉土、赤玉土、緩効性肥料を混ぜ入れて基盤を作りなおして掘り取ったローズマリーを植え付けました。ローズマリーは40~50cm間隔の市松状に植え付けてあるので、今はスカスカな状態ですが、成長力が旺盛なので、2年も経たずに一塊りの植栽地になると期待しています。

